

第 165 号  
2021年5月16日  
発行所  
祇園カトリック教会  
信徒会



### 二〇二一年度 活動方針

(一) 広島教区は、1923年5月4日、中国地方の岡山・鳥取・広島・山口・島根の五県が大阪教区から独立し、まもなく創立100周年を迎えます。教区は、それに向けて、「チャレンジ 新しい福音宣教」をわたくしたちをお使いください」を教区テーマとし、今は、「社会へのチャレンジ」(2020-22)を進めているところです。祇園教会としても、司教の司牧方針や教区テーマに沿って、これからも取り組んでいくの言うまでもありません。

(二) 問題は、私でしょう。祇園教会へ再度、赴任しました。最初の赴任(2004-2006)では、管理的な責任はなく、聖書の勉強会でイエスの福音を分かち合う楽しい日々を過ごすことができました。私の司祭活動の根幹は、公教要理「人間は、神を知り、敬い、愛し、そして救われるために生まれた」と言うものです。あの頃、教会学校に通っていた子どもたちも二十代後半になっていきます。私も還暦です。皆が、教会のことに責任を持つべき年齢になっていきます。私の祇園教会における司牧の基礎には、やはりカンガス神父がいます。私が立てば、皆さんは、その後ろに大きなカ

ンガス神父の姿を見るでしょう。さらに、山根神父、加藤神父、清水神父といった、大好きな「おそろしい」諸先輩方が築いてこられたこの教会の道程に倣いつつ、自分なりの色を出したいと思えます。

ここで一つ、大切に守っていきたいことがあります。それは、皆さんにとって「知らないところを決まったようだ」とならないようにすることです。そのために主任司祭としても、園長としても努めさせていきたいと思います。

勿論、今後、多くの失敗も、うつかりも、間違いなくあるでしょうが、その時が大事で、気づいたところで、直ちに正し、再び歩んでまいりたいと思います。ありがとうございます

主任司祭 李 相源



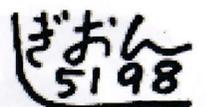
### 久保裕己神父様

ようこそ！

こんにちは、この度、祇園教会に助任司祭として参りました、久保裕己(くぼ ゆうき)です。祇園教会の歴代の神父様方はイエズス会からの派遣で来られていましたが、私は広島教区司祭として派遣されて参りました。中には違和感を覚える方もおられるかもしれませんが、教区もイエズス会も関係なく、私達司祭は全てイエス・キリストの司祭です。キリストの愛を伝える事が全ての司祭の役目であり、それ以上でもそれ以下でもありません。

愛は人に喜びをもたらします。喜ぶ人は笑顔になります。笑顔は周りの人をさらに笑顔にします。愛と笑顔に満ちた教会となれますよう共に支え合い、慰め合い、祈り合います。

司祭叙階されてまだまだ一年程度の若輩者ではありますが、皆様の温かい御支援、何卒、宜しくお願い致します。



信徒会館、司祭館の建て替えて祇園教会の風景が変わりました。聖堂は58年前に献堂され、聖堂の周りは

樹木に囲まれ、静かな教会の雰囲気でした。周囲の田んぼは消え、大きなマンション、ショッピングモールに囲まれました。幼稚園からは近隣の中学校、大学も見渡せるようになって教育施設も整備される一方、交通量も増加し、大きく環境が変わりました。毎日祈りながら指導して頂いた、純心聖母会シスターが退所されて、教会内外の雰囲気も時代の流れに沿って大きく変化していき、私達一人一人の生活スタイルも、コロナ禍の影響もあって変わってきています

▲「私が最大の価値を置くものは？ その宝によって自分がどう変わっていくか？私は宝ものを誰かが見つけてくれなければ自分の尊さを気づいていなかったかもしれない▲神が他の人ではなく、この自分だけに特に求められることは何かを、理解することは難しい。」▲そんな問いかけをしなが、聖堂の中で58年前と変わらない、静かにいつもの十字架を見つめていきたい。もうすぐ教区百周年を迎えることに聖職者の皆さんに感謝致します。